

第 102 回 ロシアの発展②

1 エカチェリーナ 2 世とその時代

- ・ 1762 年、ピョートル 3 世がクーデタにより廃位され、殺された。
→ピョートル 3 世の皇后であるエカチェリーナが皇帝となった。



エカチェリーナ2世
実はロシア人ではなく、ドイツ人である。
ピョートル3世の妃としてロシアにやってきた。愛人が数百人いたらしい。

◆ () (在位 1762～1796 年)

- ・ ピョートル 1 世の政策を受け継ぎ、ヨーロッパの技術を導入することでロシアの発展と近代化をはかった。
- ・ 啓蒙思想家のディドロなどと親交があり、啓蒙専制君主のひとりとされる。
→しかし 1773 年に () が起きた後は、農民の力を落とし (農奴制強化)、貴族の力を利用して中央集権化しようとした。



ピョートル3世

第 100 回でも登場。七年戦争では、突如の裏切りでフリードリヒ大王を助けた。知的障害があったとされる。



プガチョフ

ロシアの貧農で、大反乱の指導者となったが処刑された。ステンカ=ラージンと混ざらないように。



エルミタージュ美術館

ペテルブルクにある美術館で、規模は世界最大級。エカチェリーナ2世がコレクションを、ここに置いていたのが始まりらしい。

<エカチェリーナ 2 世の対外政策>

- ・ ロシアの領土をさらに拡大しようとし、() と戦った。
→1774 年、キュチュク=カイナルジャ条約により黒海の支配権を奪った。
- 1783 年、クリム=ハン国を併合し、() を支配下に置いた。
- ・ 1780 年、アメリカ独立戦争では、武装中立同盟を提唱してイギリスを孤立させた。
- ・ 東方ではシベリアを超えて () まで進出した。
→1792 年、日本にも () を派遣して通商を求めたが、失敗した。



ラクスマン

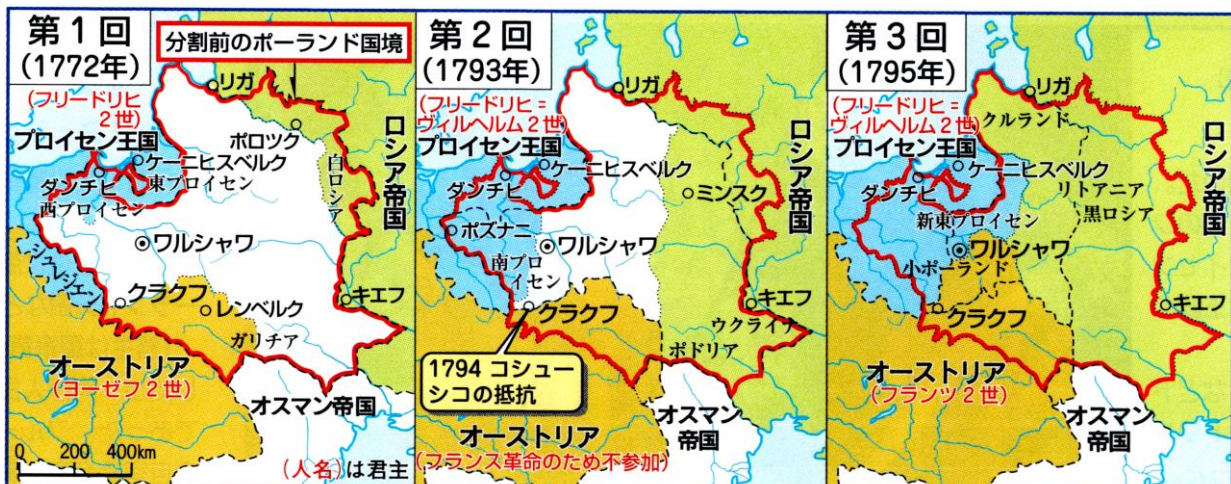
日本の根室に来航し、大黒屋光太夫を送り届け、江戸幕府と交渉を持とうとした。時の老中は松平定信であった。



大黒屋光太夫 映画『おろしや国酔夢譚』



伊勢から江戸に向かう途中、嵐でロシアに流された。ペテルブルクでエカチェリーナ2世と会い、9年後にようやく帰国できた。興味のある人は、映画『おろしや国酔夢譚』を観よう。



2 3度のポーランド分割

- ・ロシアの西にあるポーランドでは、1572 年に（ ）が断絶し、（ ）となった。
→シュラフタと呼ばれる貴族の内紛が続く、不安定な政情が続いていた。

＜第1回ポーランド分割＞

- ・1772年、()・()・()の3国が、ポーランドの領土を分割した。

＜第2回ポーランド分割＞

- ・1793年、ロシア・プロイセンの2国によって、ポーランド領が分割された。
 ※オーストリアはフランス革命の混乱のために加わらなかった。
 →（ ）が抵抗運動を指揮したが、成功しなかった。

＜第3回ポーランド分割＞

- ・1795 年、ロシア・プロイセン・オーストリアの3国によって分割された。
→ついにポーランド王国は消滅した。



エカチェリーナ2世



フリードリヒ大王



ヨーゼフ2世

18世紀後半、ポーランド分割を行ったこの3人が同時代の人だったということ覚えておこう。オーストリアではマリア＝テレジアがまだ存命だったが、息子のヨーゼフ2世がすでに即位していた。



ポーランドの英雄コシューシコ

コシチューシコとも。
アメリカ独立戦争に
参加したことでも知
られる。
抵抗運動は成功し
なかったが、現在も
ポーランドの英雄。

- ◆（ ）（在位 1801～1825 年）
- ・フランスの（ ）と戦い、アウステルリッツの戦いでは敗れた。
→1812 年、ナポレオンのロシア遠征を撃退した。
 - ・1814 年に始まる（ ）に参加し、神聖同盟を提唱した。

